

第6回“共創”自治協議会サミット

□開催日時：平成29年11月30日（木）13:30～（13:00開場）

□開催場所：ももちパレス（福岡県立ももち文化センター）

大ホール

□主催：福岡市自治協議会等7区会長会，福岡市

第6回“共創”自治協議会サミットプログラム

(敬称略)

時間	プログラム	
13:30	開会	
13:40	自治貢献者感謝状贈呈式	
13:55	地域のまち・絆づくり応援企業・商店街等感謝状贈呈式	
14:20	活動事例発表	
	<p>大ホール (中央区) 赤坂小学校児童と一緒に 『赤坂公園, 緑地活用プロジェクト』 赤坂校区自治協議会 会長 浅野 節夫 赤坂小学校 PTA おやじの会 脇田 清大</p> <p>(南区) 「七夕まつり」～地域でこどもの成長を願う～ 玉川校区自治協議会 会長 真鍋 隆一 玉川校区自治協議会 副会長 西 十九代</p> <p>(城南区) 堤丘校区のはる・なつ・あき・ふゆ ～校区の未来につながる人づくり～ 堤丘校区自治協議会 会長 石橋 雄一 堤丘校区自治協議会 書記 副島 美奈</p> <p>(早良区) 認知症キッズサポーター研修 「キッズパトロール隊」 原西校区自治協議会 会長 松岡 宏明 原西校区子ども育成部 部長 松尾 史 原西公民館 主事 五十嵐 五月</p> <p>(西区) 島を考える若い世代からはじまった 地域づくり活動 能古校区自治協議会 会長 前田 高男 能古島みらいづくり協議会 田中 郁子</p> <p>(東区) 地域との協働による移動支援モデル事業 「買い物等支援自動車」について 香住丘校区自治協議会 会長 中山 利明 香住丘校区自治協議会 事務局長 倉員 正治</p> <p>(博多区) なかなかいいね那珂南 ～地域は子どもを育む大きな家族～ 那珂南校区青少年育成連合会 会長 篠田 昌人 那珂南校区青少年育成連合会 シニア部部长 須田 由紀</p>	<p>特別会議室 (ももちパレス本館3階) 地域の高齢者が元気で楽しく暮らすために 株式会社あおやぎ なでしこ会館 係長 津崎 純</p> <p>地域の方の笑顔があふれる スーパーづくり 株式会社ダイキョープラザ 弥永店店長 浦田 一延</p> <p>地域に根ざした、地域とともに歩む 医療機関を目指して 社会医療法人財団 池友会 福岡和白病院 医療連携室 山本 聖</p> <p>住み慣れたところで暮らし続けるためのお手伝い 医療法人社団 誠仁会 小規模多機能施設 めおといわ「ゆい」 施設長 党 一浩</p> <p>発表終了後 パネルディスカッション 名刺交換&交流会</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>上記の企業等の発表は 第6回“ふくおか”地域の絆応援団 セミナー&交流会として実施します</p> </div>
16:00	閉会	

福岡市自治貢献者感謝状贈呈者名簿

(敬称略 50音順)

(東 区)

照葉校区自治協議会	会長	野口敏彦
城浜校区自治協議会	会長	藤村和徳
和白東校区自治協議会	会長	松本多喜男
香椎浜校区自治協議会	会長	宮崎憲市

(博多区)

東光校区自治協議会	会長	藤井良男
-----------	----	------

(中央区)

南当仁校区自治協議会	会長	富永元爾
------------	----	------

(南 区)

臼佐校区自治協議会	会長	佐藤豊則
鶴田校区自治協議会	会長	馬瀬博

(西 区)

金武校区自治協議会	会長	井上正典
姪北校区自治協議会	会長	篠崎弘幸
壱岐南校区自治協議会	会長	本庄敏雄

地域のまち・絆づくり応援企業・商店街等感謝状贈呈者名簿

(敬称略 50音順)

株式会社あおやぎ なでしこ会館
壱岐・野方商店連合会
社会福祉法人今山会 特別養護老人ホーム 寿生苑・美の里
SMB Cコンシューマーファイナンス株式会社 福岡お客様サービスプラザ
公益財団法人オイスカ 西日本研修センター
医療法人輝栄会 福岡輝栄会病院
株式会社北九州銀行 赤坂門支店
九州電力株式会社 福岡東営業所 福岡東配電事務所
社団法人九大仏青クリニック
社会福祉法人敬愛園
医療法人社団誠仁会 小規模多機能施設 めおといわ「ゆい」
医療法人社団誠仁会 夫婦石病院
セブン-イレブン 福岡小田部5丁目店
株式会社ダイキョープラザ
拓新産業株式会社
公益社団法人福岡医療団 たたらリハビリテーション病院
特定非営利活動法人地域福祉を支える会 そよかぜ
社会福祉法人ちどり福祉会 特別養護老人ホーム いきいき八田・いきいき箱崎
社会医療法人財団池友会 福岡和白病院
社会福祉法人博仁会 リハモール福岡
福岡笹丘郵便局
福岡草苑
フューネラルハウス彩苑 若宮斎場・青葉南斎場
株式会社ベルコ 福岡支社
三笠特殊工業株式会社
株式会社メモリード
株式会社百田工務店
柳瀬町商店連合会
株式会社やまお

活動事例発表

赤坂小学校児童と一緒に『赤坂公園，緑地活用プロジェクト』

中央区 赤坂校区自治協議会 会長 浅野 節夫
赤坂小学校 PTA おやじの会 脇田 清大

校区の特徴

- ・赤坂校区は，都心に位置し，東は大正通り，北は昭和通り，西は舞鶴公園，南は城南線に囲まれたエリアで，校区北側はオフィスビルを中心にタワー型マンションが点在し，南側は集合住宅を中心とした閑静な住宅地となっている。
- ・また，校区内にある舞鶴公園には古代の迎賓館であった鴻臚館跡や，福岡城の門や櫓など歴史的な史跡等がある一方で，赤坂けやき通り付近には，通りに面しブティックや喫茶店など立ち並ぶ，都会的な雰囲気にあふれた校区である。

【校区の現況】（平成 29 年 9 月末現在）

人口	世帯数	世帯当たり人員	65 歳以上人口（割合）
11,342 人	6,439 世帯	1.8 人	2,338 人 (20.6%)

活動について

1. 概要

- ・赤坂公園，緑地について関係者が定期的に会合を開き，子どもたちが訪れやすい公園にするために赤坂小学校の児童の意見も参考にして，ハード面の整備計画や，みんなが楽しめるイベントなどを企画してきた。

2. きっかけ

- ・赤坂公園，緑地周辺の住民から，公園及び緑地が昼でも暗く，防犯上不安だとの声が自治会長に寄せられるようになった。
- ・また，赤坂小学校でも児童に対し，赤坂公園，緑地は危険とのことで，注意喚起が出されている状況であった。
- ・都心にせつかく広い緑地があるのだから，子どもたちが安全に遊べるような公園，緑地に改善したいと関係自治会長が集まり協議をはじめた。

3. 経緯

- ・平成 28 年 8 月に周辺関係自治会長，公園愛護会会長及び中央区役所維持管理課，地域支援課，住宅都市局みどり運営課の関係者が集まり最初の協議を実施した。
- ・その後，地域アドバイザーを交えた協議を行い，赤坂小学校の総合学習の時間を利用してゲストティーチャー，児童と共にフィールドワーク，ワークショップなど開催し，今後の公園，緑地の未来図を描いてもらった。

4. 成果

- ・公園，緑地周辺の関係自治会長の意識が高くなり，子どもを意識した利用促進のための意見が出るようになってきた。
- ・赤坂小学校の児童もフィールドワークなどを通じ，自分たちで赤坂公園，緑地の未来図を描いたことで，公園，緑地に対する印象が大きく好転した。

5. 苦労した点

- ・周辺住民の理解をいかに得るか，いかに多くの人たちに公園，緑地に足を運んでもらうかについて苦労している。

6. 工夫した点

- ・いかにして公園，緑地周辺の人たちの関心を集め，公園を明るく清潔にして，子どもたちが遊びやすい環境を整えていくのか，企画の中身などを工夫している。

7. 今後の目標・課題

- ・さらに来園する人を増やすための環境整備（トイレ，ベンチ，遊歩道など）や，子どもたちがワークショップで掲げた夢を一つでも多く実現させていくため，継続的に関係自治会長及び赤坂小学校児童が意見交換を行っていく。

皆さんにぜひ伝えたいこと

- ・子ども達に，自分たちで地域に誇れるものを作ったと自覚してもらえるような，子どもたちの夢を実現させてやれる，そんなプロジェクトを地域に住む大人として援助していければと思う。

活動の様子



「七夕まつり」～地域でこどもの成長を願う～

南 区 玉川校区自治協議会 会 長 真鍋 隆一

玉川校区自治協議会 副会長 西 十九代

校区の特徴

- ・平成 29 年 8 月から特急電車が停車することとなった西鉄天神大牟田線の大橋駅周辺は、福岡市の南部広域拠点に位置づけられており、交通の拠点であるとともに公共施設や商業サービス施設、文化施設が集積している。
- ・小学校から大学まで所在する文教地区である。
- ・マンションなどの共同住宅が多く、転勤などで転出入する世帯が多い。
- ・校区の人口は南区で 3 番目に多く、世帯数は最も多い校区である。
- ・校区のスローガンは「友愛，協調，発展」で、四季折々に様々な校区活動が続けられている。
- ・現在も人口は増加しており、南区の副都心大橋とともに発展している。

【校区の現況】（平成 29 年 9 月末現在）

人口	世帯数	世帯当たり人員	65 歳以上人口（割合）
16,554 人	9,466 世帯	1.8 人	2,523 人（15.2%）

活動について

1. 概要

- ・自治協議会（各自治会・各種団体）、公民館及び玉川小学校が連携し、全校児童と自治会の方たちが七夕の飾り付けを行い展示する。展示後の「七夕集会」で、各自治会長の紹介や小学校図書委員によるスライドを使った「七夕のいわれ」の紹介を行う。
 - 祭りまでに、各種団体等が分担作業で、こより・短冊・笹飾りを作成する。
 - 祭り前日、近郊の竹林で笹竹 15 本（14 町分と公民館分 1 本）を切り出す。
 - 祭り当日、体育館において全校児童（626 人）と自治会の方たちが 14 の自治会毎に分かれ、自分の町の笹に飾り付けし展示する。展示後「七夕集会」を行う。
 - 祭り翌日、午前中に一般公開。その後一週間展示する。
 - 一週間後、数本を各町にある銀行や高齢者施設に展示する。

2. きっかけ

- ・玉川校区は、都心に近く交通の便が良い一方、マンションなどの共同住宅が多く、転勤などで転出入する世帯が多い地域であり、住民同士の継続的な交流が難しいという課題がある。
- ・このような中で、子どもたちと地域が関わりを深め、地域で子どもたちを見守るきっかけづくりを目的に、地域で七夕まつりの材料を用意し、住民と小学生が一緒になって飾り付けを行う七夕まつりが始まった。

3. 経緯

- ・校区では、子どもたちの成長を願って、登校時の見守り活動等を長年実施してきた。「七夕まつり」は、自治協議会発足時に、それまでの老人クラブ連合会から引き継ぐ形で自治協議会主催とした。
- ・これにより、短冊作り(公民館・男女協)、こより作り(老人会)、吹き流し・飾り作り(小学校PTA・自治協議会こども部)と様々な団体が参加するようになった。

4. 成果

- ・参加する各種団体等が作業を分担することで、笹飾り等の物作りの楽しさとともに、小学生と一緒に七夕飾りを作り上げる喜びを感じることができている。
- ・いろいろな人が関わり、校区をあげて約1か月間準備するので、住民同士の結びつきも強まっている。
- ・願い事・将来の夢を題材とした楽しいひとときを過ごすことで、学校と地域との架け橋づくりになっている。
- ・各自治会毎に飾り付けをするので、低学年児童の飾り付けを高学年児童が手伝うなど子どもたちの交流にも役立っている。
- ・七夕の飾り付けによる地域の人たちとのふれあいや、「七夕集会」で各自治会長を紹介することにより、子どもたちが自治会をより身近に感じることができるようになっている。

5. 苦労した点

- ・笹竹の切り出しに以前から関わっていただいている方も高齢化しており、後継人材の確保が課題である。

6. 工夫した点

- ・小学校体育館での一週間の展示終了後、より多くの住民に見てもらうため、数本を銀行や高齢者施設に展示してもらっている。
- ・児童数が多いため、飾り付けは複数の学年に分けて時間をずらして行っている。なお、「七夕集会」は全校児童で行っている。

7. 今後の目標・課題

- ・完成した七夕飾りは小学校の体育館で展示するため、昨年度までは防犯上一般公開していなかったが、今年度は祭りの翌日の午前中に一般公開したことで、保護者と浴衣がけの子どもたちの見学もあった。今後とも、一般公開の拡大を検討していきたい。

皆さんにぜひ伝えたいこと

- ・小学生が地域と関わる機会が少なくなる中で、七夕まつりを通してのふれあい、皆で協力してでき上がった時の喜びや充足感、日本の素晴らしい伝統行事を子どもたちに体験させることの大切さを伝えたい。
- ・子どもたちが地域との関わりを深め、地域で子どもたちを見守るきっかけづくりとして始めた取組であり、子どもたちの健やかな成長を願って、様々な人々を巻き込みながら継続していきたいと考えている。

様々な団体による「短冊・こより・吹き流し・飾り作り」



祭り前日、笹竹の準備



自治会毎に、玉川小学校全校生徒による飾りつけ



完成・展示



スライドを使った七夕の紹介



堤丘校区のはる・なつ・あき・ふゆ～校区の未来につながる人づくり～

城南区 堤丘校区自治協議会 会長 石橋 雄一

堤丘校区自治協議会 書記 副島 美奈

校区の特徴

- ・堤丘校区は、一本松川（樋井川の支川）が流れる UR 団地を含む住宅地であり、校区南部を福岡都市高速道路及び平成外環通り（道路愛称）、校区中央部に油山観光道路が走っている。平成外環通りを通る外環 1 番のバス運行により、交通の利便性が向上した。
- ・校区の自治会数は、4 自治会と城南区で 1 番小さい。人口は近年微減し、65 歳以上の高齢者が増えていることから、高齢化率が城南区で 2 番目に高くなっている。

【校区の現況】（平成 29 年 9 月末現在）

人口	世帯数	世帯当たり人員	65 歳以上人口（割合）
5,495 人	2,887 世帯	1.9 人	1,693 人（30.8%）

活動について

1. 概要

- ・“はる”には「小学校との合同運動会」，“なつ”には「盆綱夏祭り」，“あき”には「堤丘文化祭」，“ふゆ”には「どんど焼（奉献行）」などの四季の大きな校区事業を、自治協議会が中心となって、校区 4 町および各種団体と結束して事業活動を行っている。

2. きっかけ

- ・「小学校との合同運動会」は、地域社会活性化と三世代住民交流を願った住民の要望
- ・「盆綱夏祭り」は、伝統行事復活による歴史と伝統の継承を願った自治会長、住民の要望
- ・「堤丘文化祭」は、公民館サークル文化祭と校区住民の文化的発表の場を合同で開催することを願った自治会長、住民の要望
- ・「どんど焼（奉献行）」は、校区の伝統行事復活・継続を願った住民の要望

3. 経緯

- ・平成 26 年春に第 1 回合同運動会を開催、本年度第 4 回を成功裏に実施した。
- ・鎌倉時代を起源とする地域の歴史的伝統行事「盆綱」が、前の戦争で途絶えていたのを、平成 10 年に、校区住民の要望で復活した。現在は、この「盆綱」に校区の夏祭りを加えて盛大に開催している。この大綱づくりには、堤丘小学校「総合学習」の稲作で刈り取った藁を材料として使用している。校区行事のなかで中心的行事と位置づけている。
- ・平成 26 年秋から、公民館サークル文化祭に加えて、校区住民の作品・演技等の発表の場として「堤丘文化祭」を開催している。
- ・伝統行事保存会の復活により、「盆綱」と同じく「どんど焼（奉献行）」も復活した。

4. 成果

- ・これらの行事を通して、校区住民の地域社会に対する意識の向上が現れて来た。このことは、住民参加による地域の活性化、まちづくりに寄与していくものと期待される。
- ・また、行事に参加した校区住民の中から、未来に活躍できる人を募ることで、校区の貴重な人づくりにつなげるようになるのではないかと期待している。
- ・校区住民の間で学校、公民館への関心を高めていることも成果の一つである。
- ・校区自治協議会、各種団体の協働がよりスムーズに運ぶようになった。

5. 苦勞した点

- ・校区が 4 町と人口が少ないうえ、地域活動を中心となって行える団塊世代の参加を促す魅力づくりに苦勞している。

6. 工夫した点

- ・これらの行事に関しては、自治協だより（月刊）、自治協ブログ、チラシ、回覧等により広報活動を行った。
- ・各種団体間の交流や情報共有を目的に、理事会を毎月開催しており、特に行事については、校区住民による実行委員会を組織して実施した。
- ・子どもたちへの広報は、学校、子ども会を通して周知を図った。

7. 今後の目標・課題

- ・これらの校区行事を通して、住民各々の絆をしっかりと強め、より良い住みやすい安全・安心の地域社会を目指していきたい。
- ・加えて、今年度から、高齢化社会のなかで大きな問題として認識されている認知症について、住民みんなの問題として理解することを目標に、校区では「認知症サポーター養成講座」をすでに数回実施しており、今後も継続して行う予定である。

皆さんにぜひ伝えたいこと

- ・これらの事業は、誰もが参加できるので、まず自分ができることから参加して欲しい。校区の皆さんに自分がやったことを喜んでもらえるのは嬉しく、受け身の参加より前向きの参加は達成感が大きいので、地域にかかわるきっかけとして、ぜひ一步を踏み出して欲しい。

はる



合同運動会 大玉送り
校区住民と堤丘児童が並んで大玉を送り、町対抗で競争しました。

みんなで作った大綱を五穀豊穰と家内安全を願い、町対抗で引き合います。

堤八幡宮境内の神木の枝にかけて、大綱をつくります。

なつ



どんど焼
夜明け前の空に映える竹塔の炎

校区の樋井川1丁目子ども会は、手話合唱で文化祭に参加しました。

あき



認知症キッズサポーター研修「キッズパトロール隊」

早良区 原西校区自治協議会 会長 松岡 宏明
原西校区子ども育成部 部長 松尾 史
原西公民館 主事 五十嵐 五月

校区の特徴

- ・原西校区は、東側に金層川、西側に室見川が流れ、国道 202 号と原通りに囲まれた交通の利便性が高い住宅地である。
- ・街頭犯罪を未然に防ぐため、平成 17 年に『視まわり隊』が発足され、現在も 70 人の会員が青パトでの巡回等を行っている。
- ・平成 23 年度、公民館が団塊世代を対象に、高齢者を支援する「ボランティア養成講座」を開催し、同年度に「原西ボランティアの会」が結成された。平成 24 年度から「原西おせっ会」（ゴミ出し、季節物の入替、電球交換等）と「おしゃべりサロン」（毎週火曜）を実施している。

【校区の現況】（平成 29 年 9 月末現在）

人口	世帯数	世帯当たり人員	65 歳以上人口（割合）
11,375 人	5,135 世帯	2.2 人	2,752 人（24.2%）

活動について

1. 概要

- ・認知症や高齢者について知り、接し方について学ぶため、小学 5～6 年の子どもリーダーを対象に認知症サポーター養成講座を開催。
- ・認知症や高齢者との接し方について学ぶとともに、声掛け訓練の協力を得るため、原西ボランティアの会のメンバーや自治会長等を対象に認知症サポーター養成講座を開催。
- ・小学校低学年と子どもリーダー 5～6 人のグループに子ども育成部のメンバーが加わり、公民館から発信されるメールを活用して、認知症役の高齢者を探し出し声掛けを行う訓練を実施。

2. きっかけ

- ・平成 27 年度まで、子どもたちが楽しんで校区内を探検するコマ図を使ったウォークラリーを実施していた。
- ・校区内の高齢化が進み、一人暮らしの高齢者が増加していることや散歩に出かけた高齢者の行方が分からなくなることがあったことから、平成 28 年度に事業内容の見直しを行い、これまでのウォークラリー形式を活かしつつ、高齢者の見守りの要素を取り入れた事業を実施することにした。

3. 経緯

- ・子ども育成部から、原西ボランティアの会や自治協議会、社会福祉協議会、公民館、区役所に当事業への協力を依頼した。
- ・まず、認知症や当事業について理解を深めるため、講座を開催し、その後、実際に路上に出て、認知症高齢者に声を掛けて安全な場所（大人）へつなぐまでの訓練を行うことにした。

4. 成果

- ・子どもたちが認知症について学び、実際に認知症高齢者の方への声掛けや正しい接し方を実践することで、その難しさを体験することができた。
- ・認知症だけでなく、加齢による様々な特徴にも気付いて、自分たちで考え、その方に適した会話と誘導をすることができた。

5. 苦労した点

- ・認知症高齢者の情報をより分かりやすく子どもたちへ伝達する方法
- ・認知症高齢者と見極める子どもたちの判断力と声掛けの決心
- ・困っていたり、途方にくれたりしている高齢者の役づくりと多種多様な設定
- ・メールの登録の仕方

6. 工夫した点

- ・どうしたら、相手の気持ちに寄り添えるか、相手に安心感を持ってもらえるかということ。
- ・自分の気持ちを相手に伝えて、上手に会話をする事。
- ・一人に声掛けをするごとに振り返りを行ったこと。

7. 今後の目標・課題

- ・高齢者が住み慣れた家・地域で、安心して暮らせるような環境づくり。
- ・認知症について、子どもから大人まで正しく理解し、地域で認知症の方を見守り、寄り添うことができるまちづくり。

皆さんにぜひ伝えたいこと

- ・誰でも、いつかは高齢となり、やがて、認知症や介護と向き合う時が来る。その時に備えて、認知症等について、学び、正しく理解することが必要。
- ・認知症の方の人格を尊重することが大切。
- ・今後は、地域の高齢者介護施設等との連携やネットワーク構築が重要。



認知症サポーター養成講座
(キッズサポーター)



認知症サポーター養成講座
(ボランティアグループ)



キッズパトロール隊

島を考える若い世代からはじまった地域づくり活動

西 区 能古校区自治協議会 会 長 前田 高男
能古島みらいづくり協議会 田中 郁子

校区の特徴

- ・ 周囲 12km, 博多湾の中央に浮かぶ島。姪浜からフェリーで 10 分, 福岡市民の憩いの場所と言われている。
- ・ 歴史は古く, 奈良時代の「万葉集」にその名が登場し, 江戸時代には筑前五ヶ浦廻船で全国に知られた。
- ・ 能古の特産品の「甘夏みかんと天然あさり」はブランド化されて, 広く皆さまに喜ばれている。
- ・ 小規模校特別転入学制度（海っ子山っ子スクール）がはじまり 12 年が過ぎ, また市内では初めてとなる, 小中一貫教育校の設置に向けた準備が進んでおり, 小中学校も変わろうとしている。

【校区の現況】（平成 29 年 9 月末現在）

人口	世帯数	世帯当たり人員	65 歳以上人口（割合）
690 人	347 世帯	2.0 人	283 人 (41.0%)

活動について

1. 概要

- ・ 能古校区の高齢化率は 40%を越え, 西区で 1 番であり福岡市でも上位になっている。
- ・ 少子高齢化と人口減少のなか, まちづくりコーディネーターを招いて 3 年間にわたり勉強会を行う。その間, 能古島未来フォーラムを開催したり, 能古島に住みたい人たちを募りツアーを行った。
- ・ また, ホームページを立ち上げ情報発信, 広報誌発行にも力を入れてきた。島の空き家情報を収集整理し, 今までに 9 組の家族の方が移住してこられた。

2. きっかけ

- ・ 若い人たちからの意見, “島のことを考え語ろう” その一言からはじまった。
- ・ 能古校区では, 自治連合会の時代に作った“マスタープラン”と, 4 年に 1 回行う, 20 歳以上の島民を対象とした住民意向調査の結果をもとに語り合う仲間を広く募り, 組織の名前を決め, 活動内容を整理していった。
- ・ その後, 地域の課題解決や魅力づくりを目指す地域住民等から構成されるまちづくりグループである「能古島みらいづくり協議会」として, 自治協議会の総会で承認を経て, 勉強会などの取り組みを始めた。

3. 経緯

- ・平成 22 年 11 月 住民意向調査を踏まえ勉強会を開始
 - ・能古島の将来人口は？今より大幅に減少？
 - ・人口を維持するにはどうすればいいか？
- ・平成 23 年 2 月 「区長と語ろう会」
 - ・定住人口増加のためには何が必要？
 - ・あるものを活かす？新しい開発に頼る？空き家が多いから活用しては！！
- ・平成 23 年 4 月 「能古島みらいづくり協議会」発足
 - ・能古島の将来に危機感を感じた地元の有志（若者）が月 1 回程度集まって勉強会を開始。
 - ・「できることから始める」を大切にしよう。
 - ・空き家を活用した定住化対策の検討開始。

4. 成果

- ・能古島の様子、活動等を広く発信できるようになり、能古島に住みたいと思う人が増えてきた。また、そのことにより能古島を訪れる人が増えた。
- ・活動の活性化と同時に、能古島の様々な課題も見えてきた。
- ・人口が少なく、担い手が足りていないことが課題であるが、兼任役員で助け合う絆が広がり、様々なネットワークがしっかりしてきたことから、安心安全に住める能古島になってきた。

5. 苦勞した点

- ・空き家対策を中心に進めているが、持ち主との連絡に苦勞している。
- ・住みたい人は多いが、物件をすぐに紹介できない状況である。

6. 工夫した点

- ・他の校区の取り組みを参考にしながら、能古島に合うやり方を勉強して、フォーラムを開催した。ワールドカフェ形式で行い、たくさんの方とのコミュニケーションを行うことができ、様々な声を聴く機会になった。
- ・能古島への移住を希望する家族を対象とした「ステップアップツアー」等の試みを通じて能古島を知ってもらえるいい機会になった。情報をみんなで共有する機会となった。

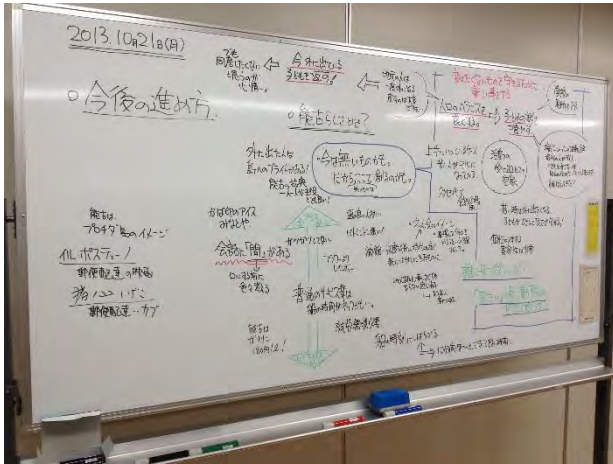
7. 今後の目標・課題

- ・“学校が変わる”今、地域で出来ることは何かを考え、子育て世代の層を増やす方策を考えていく。豊かな自然に囲まれた能古島の環境と人との繋がり、ネットワークの力の大きさの良さを広く発信していくことで課題解決に繋げていく。

皆さんにぜひ伝えたいこと

- ・地域を支えるとは、人との繋がり・思いやり・あたたかさである。新しい人が増えても、変わらない人と人との助け合い。昔から大切にされてきた行事や伝統を想いを持って受け継ぎ支えていくことで、見えない何かでつながっていくと思う。

定例会の様子



能古島未来フォーラムの様子



ステップアップツアーの様子



地域との協働による移動支援モデル事業「買い物等支援自動車」について

東 区 香住丘校区自治協議会 会 長 中山 利明
香住丘校区自治協議会 事務局長 倉員 正治

校区の特徴

- ・旧香椎町の一部（浜男・唐原）であったが、昭和 30 年の福岡市との合併に伴い、福岡市に編入される。香住丘小学校は、昭和 30 年 6 月、香椎小学校香住丘分校として開校。翌昭和 31 年 4 月、香住丘小学校となる。その後、昭和 60 年 4 月に香椎下原校区が分離し、現校区となる。
- ・校区の中央を JR 鹿児島本線、西鉄貝塚線が走っており、それぞれ JR 九産大前駅、西鉄香椎花園駅、唐の原駅が立地。香椎花園駅前周辺には、多くの市民に親しまれている香椎花園、地域活動の拠点施設である東体育館が立地している。
- ・福岡女子大学・九州産業大学・九州造形短期大学・香住丘高校が立地している文教地区のひとつであり、人口及び世帯数ともに東区で 2 番目の規模である。

【校区の現況】（平成 29 年 9 月末現在）

人口	世帯数	世帯当たり人員	65 歳以上人口（割合）
17,913 人	9,042 世帯	2.0 人	3,755 人（21.0%）

活動について

1. 概要

- ・地域との協働による移動支援モデル事業として、買い物支援自動車の運行を平成 29 年 2 月 1 日から開始し、校区の希望（登録）した高齢者約 80 名の利用者を、毎週月・水・金のそれぞれ午前と午後（各利用者にとっては週 1 回）、校区内のスーパーマーケットに案内（往復）して買い物の支援を行っている。

2. きっかけ

- ・校区内で近くに店舗がなく、バス停からも離れた市営住宅で、日常の買い物に困っている高齢者等がいて、何か方策がないものかとの相談が自治協議会にあり、検討していたところ市の当該モデル事業の報に接した。

3. 経緯

- ・校区は昭和 20 年代に丘陵地帯が開発されて出来た急坂の非常に多い住宅街であり、きっかけとなった市営住宅のみならず日頃から買い物等に困っている高齢者を多数見かけるため、校区全体の問題として取り上げてモデル事業に応募した。

4. 成果

- ・運行を開始して約半年が経過した時点で、利用者に対して行ったアンケートの結果で、買い物支援に満足しているとの回答が圧倒的に多く、一定の成果があったと考える。

5. 苦労した点

- ・買い物支援自動車の燃料等の運営費の工面と運転手及び付添人等のボランティアの確保であり、運転手については、自治協議会だより等で広報に力を入れたが思うように集まらず、最後は伝手(つて)に頼って安定的・継続的運行に最低限必要な人数を何とか確保した。

6. 工夫した点

- ・校区内で既に実施している青色パトロールカーの運用を実績として、買い物支援自動車の定員(10名内利用者8名)を考慮し、利用者と店舗を効率的に結び付けるコースを設定するため、利用者を「登録制」にした。

7. 今後の目標・課題

- ・事業を安定的に継続させるためには、買い物支援自動車の燃料等の運営費の安定的な確保と運転手及び付添人等のボランティアの将来に向けた継続的な確保が重要課題である。

皆さんにぜひ伝えたいこと

- ・地域の住民が安心して生活できる環境づくりの一端を担う自治協議会として、今後益々行政との連携・協力が不可欠であると実感している。

出発式



買い物支援自動車(ふれあいかすみ号)

ボランティアのメンバー



運行の様子



なかなかいいね那珂南～地域は子どもを育む大きな家族～

博多区 那珂南校区青少年育成連合会 会長 篠田 昌人
那珂南校区青少年育成連合会 シニア部部长 須田 由紀

校区の特徴

- ・博多区の最も南に位置し、春日市と大野城市に隣接している。
- ・JR 南福岡駅と西鉄雑餉隈駅を有し、交通の便が良い。
- ・銀天町商店街、春町・西春町の桜並木、元町の南福岡十日恵比須大祭など見どころも多い。

【校区の現況】（平成 29 年 9 月末現在）

人口	世帯数	世帯当たりの人員	65 歳以上人口（割合）
13,864 人	7,761 世帯	1.8 人	3,163 人（22.8%）

活動について

1. 概要

- ・本会が校区青少年育成連合会と校区子ども会育成連合会を兼務。
- ・小学生から中高生、社会人・保護者まで一貫した育成活動が可能。
- ・「育みの心」を重視して、世代間交流による共有活動を実践。
- ・特に高校世代シニアリーダーと小中学生の交流が活発化している。

2. きっかけ

- ・小学生ジュニアリーダーOB が活動の場を求め中学ジュニアを結成。
- ・同様に中学生ジュニアの初期世代を中心にシニアリーダーを結成。
- ・活動開始は子ども達的意思により、環境整備は当会が実施。
- ・ゴールを強く意識せずに、子ども達の自主性による運営が特徴。

3. 経緯

- ・平成 22 年度 前体制発足（会長中村勇次）
- ・平成 24 年度 当会体制強化（役員 6 名→13 名）
- ・平成 25 年度 当会組織化（JL 部・中学部・シニア部・体育部）
- ・平成 26 年度 中学ジュニアリーダー発足
- ・平成 27 年度 シニアリーダー発足
- ・平成 28 年度 現体制発足（会長篠田昌人）

4. 成果

- ・世代，性別，環境を問わず多くの子ども達が活動に参加している。
（本年度 小学生 JL40 名・中学ジュニア 25 名・シニア 13 名）
- ・シニアを中心に「子どもの意思」による活動を生みだしている。
- ・保護者の幅が広がり，地域の多くの人が子どもと触れ合っている。

5. 苦労した点

- ・活動そのものを支える当会役員の人材発掘と育成。
- ・校区内 12 自治会の育成活動に対する意見の違いのとりまとめ。

6. 工夫した点

- ・当会の組織化による役員の役割分担と業務軽減。
- ・校区内自治会を継続的に訪問し，活動へのニーズ収集を実施中。

7. 今後の目標・課題

【目標】

- ・小学生活動と中学生活動の接点拡大による交流活発化。
- ・シニアリーダーの校区成人式を兼ねた卒業式の企画と実施。
- ・卒業したシニアリーダーの育成活動への参加と受け皿作り。

【課題】

- ・自主性を活かす
- ・組織の境を外す
- ・大人が子どもたちと喜怒哀楽を共にすることが課題

皆さんにぜひ伝えたいこと

- ・子どもたちを支える活動は，子どもからの信頼を勝ち得る大人の地道な努力と，大人同士の支え合いが基盤になると考えている。子ども達の活動を，支える大人の基盤づくりの視点から再構築することで，今後の当校区のあり方を含めた，同様の課題を抱えるまちづくりのヒントとして提言したいと思う。

活動の様子



中学生ジュニアリーダーの 活動内容



シニアリーダーの活動内容

主な活動

- ・福岡マラソンボランティア
- ・どんど焼きでの食器
- ・毎月の定例会
- ・校区夏祭り出店
- ・バンド活動
- ・天拝山登山
- ・得意なものの教室

白字は昨年からの継続した活動
黄色は今年度始めた活動

第6回

“ふくおか”

参加無料

THE SUPPORTERS OF FUKUOKA CITY COMMUNITY TIES

地域の絆 応援団 セミナー & 交流会

第6回
テーマ

企業の強みを活かして“地域と創る”

*本セミナーは「共創」自治協議会サミット内で開催されます。

今回は、地域への関わり方や地域貢献の方法、地域から受けた要望など、実践者から具体的な事例を紹介していただきます。地域に根ざし、地域のために企業ができることを、一緒に考えていきませんか。自治会・町内会の方も参加しますので、地域とのネットワークづくりとしてもご活用ください。

会場

ももちパレス 本館3階 特別会議室（福岡市早良区百道2-3-15）

定員

60名

対象

地域貢献やコミュニティビジネスに関心のある企業やNPOの方
自治協議会等の地域団体関係者、共創に興味のある方

内容

【第1部】事例紹介 & パネルディスカッション

- ①株式会社あおやぎ なでしこ会館／係長 津崎 純 氏
- ②株式会社ダイキョープラザ／弥永店店長 浦田 一延 氏
- ③社会医療法人財団池友会 福岡和白病院／医療連携室 山本 聖 氏
- ④医療法人社団誠仁会 小規模多機能施設 めおといわ「ゆい」／施設長 党 一浩 氏

【第2部】名刺交換 & 交流会

開催日程

11/30 [THU]

14:20-16:30



【主催】“ふくおか”地域の絆応援団評議会、福岡市、ふくおか共創プロジェクト

facebookページ 「ふくおか共創プロジェクト」で検索

詳細内容

第6回目は企業×地域がテーマのセミナーです。地域のまちづくり・絆づくりを応援している企業として感謝状が贈られた企業を代表して、4つの事例を紹介します。企業の強みを活かして、地域の未来を共に創るヒントが見つかるかも。

【第1部】 事例紹介&パネルディスカッション

14:30-16:00

1 株式会社あおやぎ なでしこ会館

公民館講座に、エンディングノートや葬儀、お墓について話す講師を派遣されています。また、町内の老人クラブの集まり・イベントへの飲み物の差し入れなどを行われています。その他、公民館や自治会等の旅行時などに自社のマイクロバスを提供されています。

2 株式会社ダイキョープラザ

創業以来、校区のお祭りへの協賛のほか、地域住民の交流の場の提供、イベントの実施など、地域活動を積極的に行われています。また、校区で行われている徘徊高齢者対応の声掛け訓練に全面的に協力するなど、認知症の方への支援にも取り組まれています。

3 福岡和白病院

地域の医療機関として、看護師を校区夏祭りの救護班に派遣したり、医師を地域団体主催の講座に講師として派遣するなど、地域の健康増進に向けて活動されています。また、自治協議会や公民館主催の防災訓練などの地域活動にも積極的に参加されています。

4 小規模多機能施設 めおといわ「ゆい」

堤地区の各種団体事業に、企画段階から積極的に参加し、高齢者問題への対応や、認知症の方に優しいまちづくりに向けて活動されています。また、劇団を結成し、寸劇を通じて、認知症について正しく理解してもらうための啓発が行われています。

【第2部】 名刺交換&交流会 16:00-16:30

名刺交換タイムです。短い時間ではありますが、情報交換や連携のきっかけとなる出会いがあるかもしれません。事務局もいますので、「ふくおか」地域の絆応援団にご興味のある方がいらっしゃれば、ぜひお声かけください。

福岡市が考える「共創」の取り組み

福岡市では、地域づくりを地域だけで行うのではなく、企業や商店街、NPO、大学など、さまざまな立場の方と進めていく「共創」の取り組みを推進しています。それぞれが、できることを持ち寄り、地域課題の本質と向き合い、新しい価値を創造することを目指しています。

“ふくおか”地域の絆応援団 募集中! 地域を盛り上げ、地域と一緒に“住みたいまち”をつくりましょう!

“ふくおか”地域の絆応援団は、自治協議会や自治会・町内会などの地域団体が行う地域活動を応援している企業や商店街のみなさまにご登録いただいているグループです。福岡市内で地域活動を応援する取り組みを継続的に行っている組織・団体であれば、ご登録いただけます。ぜひ、地域と一緒に、地域活動を盛り上げていきましょう!



↑登録はコチラから
“ふくおか”地域の絆応援団
登録申請入力フォーム

登録数 50団体 (2017年11月現在)

メリット 登録団体は、福岡市のホームページにて、お名前と取り組みの内容を紹介いたします。また、ご希望の場合は、地域活動の募集情報や事例などをお送りいたします。

お問い合わせ先

“ふくおか”地域の絆応援団セミナー事務局

☎070-7582-0497 (共創コネクター代表電話)

メール:kyousou@crik.jp